

第2回 橿原市環境審議会 議事録

日 時:平成25年2月5日(火) 10:00～12:00

場 所:本庁舎本館3階 第2会議室

■次 第

1. 開 会
2. 報告事項
 - ◇ 第1回環境審議会開催以降の動き
3. 議 事
 - ◇ 橿原市環境総合計画(案)について
4. 閉 会

■出席者

(審議会委員)(順不同・敬称略)

◎久委員、楨村委員、石田委員、森本委員、上田委員、○遊津委員、小西委員、葛井委員、諫原委員、梅本委員

※◎:会長、○:副会長をそれぞれ示す。

(事務局)

森田生活環境部長、藤本生活環境部副部長、加藤課長、井上統括調整員、渡邊主事、粟子計画景観課長、竹田文化財課長

(コンサル)

生野、藤井、岡井

■配布資料

- | | |
|------|-----------------|
| 資料 | 橿原市環境総合計画(案) |
| 参考資料 | 第1回橿原市環境審議会 議事録 |

■議事要旨

1. 開 会

2. 会長あいさつ

本日も前回に引き続き「環境総合計画案」について審議させていただきます。環境に関して取り組んでいくためには、行政のみならず市民・事業者の協力が不可欠です。本日お集まり頂いたメンバーの中にも地域協議会や公募市民の方々もいらっしゃいます。本計画をどのように具現化していくかについて皆様からご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

3. これまでの経緯を説明

事務局より、第1回環境審議会以降、市民策定委員会を1回、庁内策定委員会1回、さらに市民による環境シンポジウムの開催、パブリックコメントを開催し、内容を充実させてきたとの報告があった。

4. 議 事

事務局より、資料1（環境総合計画案）に基づき、第1回環境審議会からの変更点、新たに具体案を作成した箇所について説明があった。

【会 長】 次第にございますように、本日は2つの議案が事務局から提示があります。まずは「これまでの策定経過とスケジュール」ということでございますが、まずは、事務局から資料説明をお願いします。

（1）4章について

【会 長】 4・7章が前回以降、新たに加わったということなので重点的に意見を伺いたい。まず、4章までで何かないか。

【副会長】 前回の審議会の計画案に比べてたいへん読みやすくなった。CO2の削減目標値ですが国が方針を定めてない状況であるなか定量目標を設定したことは評価する。ただし数値的には物足りない部分もあるが、今後、奈良県・国の動向を見ながら再点検をしてもらいたい。

どうしても温暖化対策の箇所が目につくので、これからいくつか発言する。

基本目標1に関しては、どうしてもこのような書きぶりになってしまうのかもしれないが、環境学習に関する記載の切込みが浅いと感じる。そろそろ学校教育のカリキュラムに環境教育を組み込むべき時期が来ているのではないか。

7章の市民協働プロジェクトも同様で、サラッと流している感が否めない。

基本目標2に関しては、生物多様性に関する環境指標が調査回数のみが示されている。できれば、例えば希少種・在来種をどれだけ現存しており（把握していればという条件付きにはなるが）、それをどれくらい増やすのかといった保全種の目標数量などが記載できないものかと考える。

基本目標3に関しては、現在、中国からの大気汚染物質問題が言われているが、奈良県・橿原市では光化学オキシダント、ダイオキシン問題がないからなのかもしれないが、あまりこの辺りが言及されていないと感じる。さらに放射能の監視測定ということも将来計画であるならば盛り込むべきでは

ないか。

基本目標4に関しては、マイバック持参の取組に関する記載に止めることなく、レジ袋の有料化まで踏み込んで良いのではないかと。また、橿原市は廃棄物発電を既に実施しているのでこれはもっとアピールしても良いのではないかと。

基本目標5に関しては、冒頭お話したように数値目標は評価しています。数値云々ではなく、交通関係が大きなウェイトを占めているとあるが、最も課題であるのは民生業務部門であり、上昇率も高い傾向にある。内容を見るとこの部門に係る対策が薄いように感じる。

p.75のスマートメーターの記載について、まだスマートセンサーが残っているので修正してもらいたい。

(2) 5章について

【会 長】どのように修正するか、入れるか入れないかは事務局で検討してもらいたい。よろしければ、5章について何かあればご発言ください。特にないようなので私から3点申し上げる。

「絆づくりプロジェクト」に関して、非常に重要なことだと思う。奈良県策定の環境計画では、「自治会活動や地域活動をされている方々に環境意識を持ってもらうことを重点的にやっていこう」ということを提案させてもらった。

なぜなら、地域協議会メンバーの皆さんもそうですが、環境に熱心な市民は更に一生懸命やってくださるのですが、なかなか裾野が広がっていかないという現状がある。やはり、地域活動団体に呼び掛けて地域ぐるみの環境活動に繋げてもらいたいという思いがあったからです。その意味でこの絆プロジェクトもその一環だと考えます。

記載されているニュアンスとしては、まずは「絆を作ろう」といったところがあり、それをどのような形で環境行動に持っていくかを重点化してもらいたい。

具体的には、吹田市では「市民環境推進会議」が中心となって、地域の祭りを「ごみゼロイベント」にするという取組を実施している。そうすると、祭りを通じてゴミ問題に対する意識が高まることが期待できる。このように地域行事をごみゼロにするといった具体的な方策を含めて検討して欲しい。

協働プロジェクト1には、「かしはら学」とあり、たいへん良いことだと思う。実は、地域を知って、地域資源を活用することが、これらのまちづくりにおいて、省エネ・省資源に繋がっていくと考える。その辺りを書き込むとより分かりやすくなると思う。

具体的には水俣学の例がある。「無い物ねだり」ではなく「あるもの探しをする」という考えである。従来のまちづくりは、うちの町には〇〇がないので新しいものを作ることに重みを置いていたが、そうなってくると資源・エネルギーを投入しなければ実現することができない。逆に今あるものを見つけて磨いていくということになると、直接的に省資源・省エネに繋がることになり、このような観点でも「かしはら学」は重要であると考えている。

自分の町にはどんな良いものがある、それをより良いものへと磨いていくことで環境にやさしいまちが形成されるといったストーリーがあれば良いと考える。

三つ目の意見であるが、現在、橿原市でエコショップ認定制度を取り入れているそうで、兵庫県赤穂市でも同じような取組を実施している。お店の方が頑張っても売上に繋がらなければモチベーションが高まってこない。やはりエコショップを市民に活用してもらうような取組を実践してもらいた。赤穂市では消費者協会と連携して、協会イベントの折には、エコショップのPR活動を行い、消費者行動に結び付ける取組を実施している。この辺りも重点PJの中に盛り込んでもらいたい。

【副会長】リーディングプロジェクトの取組期間はどれくらいを想定しているのか。

【事務局】まずは1年後を目途に、動けるものは具体的に動かし、なかなか決まらないものは、協議会メンバーと相談しながら実施までのロードマップをこれからではあるが詰めていきたいと考えている。例えば、「環境マップ」作成に関しては、様々な人を巻き込みながら早急に取り掛かる予定としている。

継続して10年間はこのスタイル、またプラスアルファの取組に関しては、協議会メンバーと企画検討をしながら実施していきたい。

【会 長】遅くとも前期5年間にはすべての取組を実践してもらいたい。そういった意味では、この辺りを書き込んでもらうと分かりやすい。

【副会長】できればもう少し具体的な取組内容を記載してもらいたい。

(3) 6章について

【会 長】「年次報告書」を発行することは良いことである。ちなみにこの報告書は、案の段階でパブコメを行い、市民意見を取り込んだ報告書にするつもりはあるのか。

【事務局】予定していません。

【会 長】豊中市がパブコメを取り入れて発行している。各所管が今年は何をがんばったかを記載しなければならないが、同市の初期段階では、所管によって記載内容の深さにバラつきがあった。当然であるが、パブコメを実施することによって、内容が浅い所管の文書に対して、数多くの質問が寄せられ、手直しを余儀なくされたと聞いている。その経験を得て、2年目からは、全所管が市民の眼を意識して、レポート作成をするようになったという例があり、庁内の意識醸成のきっかけにもなるので、パブコメを検討してもらいたい。

他方、本計画策定に係る市民からの意見がなかったのは残念である。

【事務局】「年次報告書」に対する市民意見聴収の件であるが、施策の実施状況に対して意見をもらうということか。

【会 長】報告書には、現状とそれに対するコメントが記載されると思う。それに対して、「役所は〇〇と考えているかもしれないが、市民は〇〇と考える。」といった意見を聞いて、内容に反映するという対話に期待している。

先週も本年度の環境報告書の審議会に参加した。先ほども、民生業務部門のCO₂排出量を削減する必要があるとの発言があったが、私から豊中市に対して「市役所も頑張っているのに、市内事業者の皆さんも頑張ってもらえませんか」といった内容を記載することを提言した。なぜなら、行政は、なかなか市民に対してこれをして欲しいという声を発しない傾向を案じたからである。

【委員】市民策定委員会にも参画して計画づくりに関わってきたが、本計画を市民ひとり一人にどうやって行動してもらうよう伝えるかが重要になってくる。広報誌を配布しても当然、中身を見ない市民も多くいることから、特効薬はないと思うので、長い目でこの周知方法を熟考する必要があると考える。

【事務局】計画・取組の周知方法について、市の広報、ホームページの活用は当然ですが、環境保全課が実施している廃食用油回収事業に関しては、毎年1回、自治連合会に協力してもらい、「お願い文書」回覧の依頼をさせてもらっている。今後、このような機会があれば大いに活用したいと考える。策定委員会でも意見があったが、回覧板はなるべく手渡しすることで、近隣の住民相互のコミュニケーション不足の解消にも繋がることから、そのような動きを働きかけたいと考える。

【会長】市役所が行う普及啓発は、どこかの会場を押さえ「会場までお越しください」という市民講座、「呼ばれたらどこでもお伺いします」という出前講座が主流となっている。私はもう少し先を行かないかと提言しているのが「押しかけ講座」である。

呼んでもないのに来るというぐらいの積極性があっても良いのではないかと考える。

具体的には、料理教室などのサークルをされている市民の場所に押しかけて、5分程度を借りたいと申し出て、市民の認知を広げてゆくというものである。

行政は本気で知らせようとしているのかと多くの市民が疑問を持っているのが実情である。例えば、ごみ分別に関しては徹底的に地域へ入り説明会を開催する。つまり自分たち行政が困るときは、本気で周知活動を行う訳である。ところが、CO₂排出量などは市役所自体が困る話ではないので、そのような時はサラッと流している。こんな傾向を何とかしなければならないのではないかと考える。

【副会長】今回のパブコメで意見がゼロであったことはショッキングな出来事である。しかしながら、市民策定委員会に多くの環境団体が参画していたり、シンポジウムも開催したことが、このような良い結果になったとも考えられる。会長の提言にもあったように、今後は周知方法をよく考える必要があるのではないかと考える。

【会長】少子化に伴い、大学も学生獲得のために、様々な箇所に押しかけ営業を行っており、これは世の企業にとっては当たり前のことである。そのような意味でも、市の環境問題に関しても同様の取組を実践してもらいたい。

「年次報告書」を発行することはもっと早く、効果的な方法であると考えている。毎年毎年、市民のチェックを受けながら計画を推進するということが重要であって、報告書を発行することが目的ではないと思うので、できるだけ市民に関わってもらう仕組みにすることを提案する。

さらに豊中市の場合は、関係するすべての課が年次報告書のレポート作成に関わっているという習慣づくりのために報告書を活用してもらいたい。

年次報告書を環境部署のみで作ってしまうと何の意味もないのでこれについては注意されたい。

(4) その他全体について

【委員】p.74の枠内、年次表記に誤りがあるので確認修正すること。

市の環境計画としてはたいへん良くまとめていると評価している。環境問題をもれなく捉え、分

かりやすく整理されていると思う。

優先的・重点的な取組を抽出して協働プロジェクトを実施するという事務局の説明であったが、重点化の結果が市民協働ではないと考える。取組を推進していくための基本となる方策として市民協働をされるのではないかと。というのも、先ほどの事務局説明でも今後 2・3 年で協働の仕組みを構築し行動するというようなスケジュール感は持っていなかったからである。

今日の話を踏まえ、もっと前倒しでやっていくことと改めるならば、これら協働プロジェクトは優先・重点でも良い。その代り、具体的な工程表を早急に作る必要がある。

事務局からは、1 年後にはスタートさせたいという話があったので、なるべく早期に動くような形と、効果が出るような形で、簡単な計画を作成いただき、行動をしてもらいたい。

橿原市は特に、地域協議会が中心となって熱心に環境活動を展開しているように見受けられる。おそらくこの協議会が中心で協働プロジェクトを進めるということだと思うが、その時、気をつけてもらいたいのは、一般市民に意識・行動を浸透させるためには、協議会メンバーがその他の市民を引っ張り込むような行動を起こしてもらいたい。そうでなければ、いつまで経っても一生懸命行動しているのは一部の環境団体だけという現状を打破できないと考える。

【会 長】私も市民協働は重点化ではないと考える。重点化のもうひとつのポイントとしては、たくさんの方の施策があるが、それをどのように連携させてストーリー、シナリオに持って行けるかである。しかし、市民委員の皆さんが言われるように、どの施策も重要であるが、それをどのように繋ぎ、より効果を上げるかという所を書いてもらえればと感じる。そのあたりが、少し弱いと感じる。

環境活動を広げようとする、異分野と交流することが大切である。歴史と環境が交流し合うことによって、歴史好きの市民が、環境保全にも理解を深めることができる効果が期待できる。

言い換えると、協議会メンバーが「環境問題」ばかりを扱っていては、環境に興味のない市民は振り返ってくれない訳で、そのようなことから、異業種交流、押しかけ講座などが重要である。

一昨年、カダラートという県の事業が実施されており、昨年は、今井町、札の辻で開催した。歴史的な場所に現代アートを持ち込むと、まちの違った魅力を再発見できるという取組である。このような異分野の交流で意識を広めようといった戦略が必要だと考える。

そのような意味で、庁内においても環境保全課だけが一生懸命になって取組のではなく、様々な部署と連携して取り組むことができれば、施策相互の連携による効果が期待できる。これを来年度以降、どのように持っていくかが鍵となると考える。

【会 長】時間となりましたので、最終的には事務局と会長である私の間で最終調整した後、視聴に対して最終答申をさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

5. 閉 会

【生活環境部長】本日は長時間に亘り、環境総合計画の審議を頂きありがとうございました。一応、本日の審議を受けて視聴へ答申できる状況になりました。環境審議会の各委員におかれましては、今後とも計画関連施策の進捗状況や評価などをお願いすることとなりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

12:00 終了
以上